



## 「日本の天気—その多様性とメカニズム—」

小倉義光 著

東京大学出版会, 2015年4月

426頁, 4,500円(本体価格)

ISBN 978-4-13-060760-5

本書は、本誌にシリーズで掲載された「お天気の見方・楽しみ方」の内容を適宜選択・改訂し、新たな事例を加えて1冊の本にまとめたもので、日本特有の「天気のうつろい」に興味をもち、かつその大気現象をきちんと理解したい方に絶対お薦めの本です。著者は“あの”小倉義光先生です。“あの”には碩学、大家、高名、そして高齢(1922年生まれ)という意味を含みますが実に若々しい文体と内容で、驚嘆すべき体力と知力です。「はじめに」に書かれた本書の目標、「そうか、そうなのか、そうだったのか」という知的好奇心の満足」が得られる良書です。

店頭で本書を手にとってページ数の多さ(本文のみで377ページ、全体で400ページを超える)と章立てを見て敷居の高さを感じた方は、「はじめに」ではなく先ず「おわりに」を読んでいただければ本書に深く引きずり込まれること間違いありません。本書はジャンルでは解説本に入るかも知れませんが、名探偵が活躍する推理小説、あるいは名料理人が書いた料理のレシピ本に近い読後感です。章の構成は以下のようになっています。各章のタイトルはオーソドックスですが、数が多くて書き切れない節のタイトルが魅力的です。

- 第1章：お天気の移り変わりとお天気系(4節)
- 第2章：グローバルスケールの擾乱(4節)
- 第3章：多様性を生む4つの要因(4節)
- 第4章：温帯低気圧の基礎的な考え方(4節)
- 第5章：前線形成のプロセス(5節)
- 第6章：渦位(6節)
- 第7章：低気圧の発生・発達に及ぼす凝結潜熱の影響(4節)
- 第8章：台風並みに発達した低気圧(2節)
- 第9章：春の嵐を呼ぶ日本海低気圧(3節)

- 第10章：亜熱帯低気圧(3節)
- 第11章：ポーラーロウ(3節)
- 第12章：秋雨前線(2節)
- 第13章：深い湿潤対流と雷雨(4節)
- 第14章：メソ対流系(5節)
- 第15章：竜巻(6節)
- 第16章：大雨と大雪(6節)

第1章から第7章まではどちらかと言えば気象力学基礎論ですが、実例を示しながら一部「総観気象学入門」と重複する内容が、より容易に理解が深められるよう工夫して書かれています。第8章以降は、主に著者が興味を持ち疑問を感じて調べた研究を基にした事例解説で、受け売りの知識と浅い理解で書かれたタイトル倒れの解説本とは全く異なり、著者の言を借りれば、「二十余年の滞米生活の経験が、日米の天気系の違いを知るのに役立つ」、「総観気象学入門」に血肉を与え、生き生きとした天気系を描く」ことに成功しています。

内容が極めて高度にもかかわらず、とても読みやすい理由がいくつかあります。先ず1ページの文字数と行数、章の長さが実に絶妙で、文体も語り口調に近く著者の人柄が感じられます。そして、宝石のようなエピソードが話の流れの中にさりげなく息抜きとして挿入されていて、これがちょうど講義中の学生の眠気をさますのと同じく、読者の頭をリラックスさせる役割を果たしています。さらに、大気現象の謎をどのように解き明かすかという思考の流れを読者が身近に感得できるよう、また、読者の気持ちを先取りするように、少し疑問を感じたり理解しにくい箇所になると、無理に先に進まずに基礎に戻って分かりやすく説明し直すなど、実に親切です。

なお、「おわりに」に著者の特筆すべき業績のひとつである「非弾性方程式系」をみつけた経緯が書かれていますが、著者へのインタビュー付きで気象研究ノート「気象学における非弾性力学入門」が今年度内に刊行される予定です。

(北海道大学低温科学研究所 藤吉康志)